

G8に対する9条世界会議声明

グローバル化がすすむ世界の中で、人類が直面する課題はかつてないほどに相互連関を深めています。環境の課題や、ミレニアム開発目標の達成をはじめとする開発の課題、そして「対テロ戦争」や核不拡散を含む政治的課題は、もはや切り離して取り組むことはできなくなっています。それだけでなく、こうした課題は、平和なくしては前進することができません。

大国たるG8諸国は、暴力の連鎖を断ち切るとともに、人権を尊重し人間の安全を満たすような、すべての人にとって平和で、非暴力的で、ジェンダー・バランスのとれた公正で持続可能な世界を築くために、多国間協力のなかで率先して取り組んでいかなければなりません。この目的を達成するために、軍縮を実行し、開発のための革新的資金メカニズムをつくり出さなければなりません。

この問題に関し国連は、毎年の総会決議において、国際社会に対し「拡大し続ける先進国・途上国間の格差を縮小することをめざしつつ、軍縮と軍備制限の実行によって得られる資源の一部を経済・社会の開発に振り向けること」を求めています。決議はまた、各国政府に対して「軍縮、人道、開発の活動をさらに統合する努力をすること」を奨励しています。9条世界会議は、軍縮と開発の関係に関するこのような重要な議論を発展させようとする国連の努力を支持します。

G8諸国は世界の軍事費の70パーセントを支出しています。このような主要軍事費支出国として、G8諸国は、軍事費を大胆に削減するとともに、その資源を平和、開発、環境保護のために転換しなければなりません。

以下に署名した9条世界会議の参加者・支持者たちは、日本国憲法9条を国際平和メカニズムとして活用することをうたった「9条世界宣言」の提言を想起しつつ、G8サミットが日本の北海道・洞爺湖で7月に開催されるにあたり、G8諸国が以下の事項について検討するよう求めます。

平和

平和的手段による紛争予防、平和構築、人間の安全保障の取り組みを支持し、平和のうちに生きる基本的人権を広め実現すること。

「対テロ戦争」

アメリカが主導する全面的な「対テロ戦争」は、恐怖と抑圧を生み、憎悪と暴力を世界中で助長しています。このような「対テロ戦争」を終わらせ、テロリズムの根源となっている要因について、人権を尊重し国際法を活用しつつ、国際協力によって対処すること。

核兵器廃絶と軍縮

核兵器廃絶に向けた核不拡散・軍縮のための多国間の取り組みを強化すること。同時に、G8諸国は武器貿易条約の早期締結に向けた交渉を進めるとともに、クラスター兵器の全面禁止に向けた政府間プロセスを促進し、対地雷禁止条約を完全に実行すること。また、劣化ウラン兵器の使用を禁止するための国際合意をつくること。これらを第一歩として、全面的な軍縮と非軍事化のためのプロセスを進めること。

開発

軍縮を開発および人間の安全保障と結びつける取り組みを進めること。軍事費の一定率をミレニアム開発目標およびそれ以上の開発資金に振り向けること。

環境

戦争と軍事が環境にもたらす負の影響を認識し、転換すること。また、希少化する天然資源およびエネルギー資源の管理をめぐる外部からの干渉や争いが紛争を助長する危険はよく知られているところであり、こうした危険に対処すること。

平和に対する世界の企業の社会的責任

平和、人権、環境保護を含むような企業の社会的責任を支えるための仕組みを構築し、実行すること。